

経営比較分析表（令和2年度決算）

新潟県 新潟東港地域水道用水供給企業団

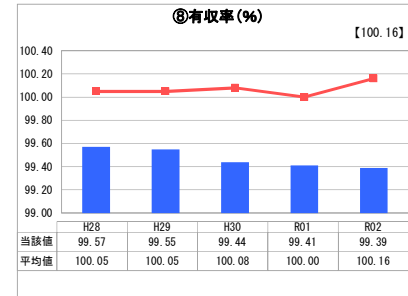
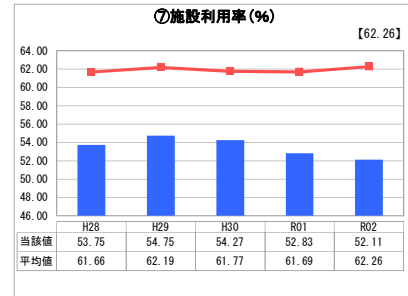
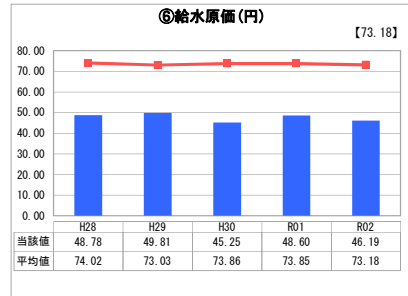
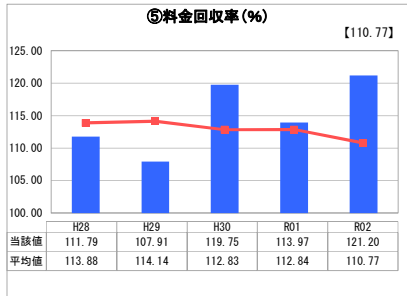
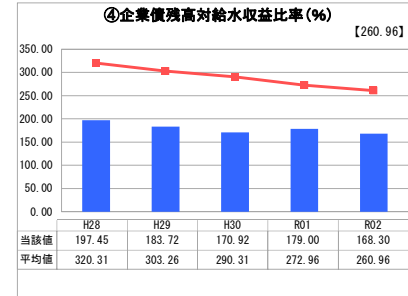
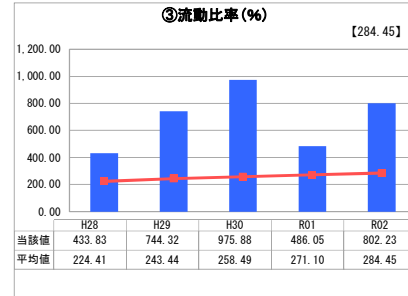
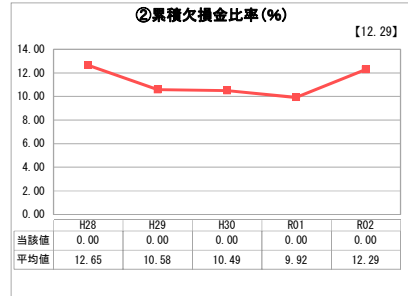
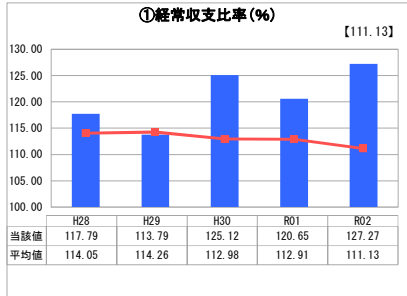
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	用水供給事業	B	その他
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	82.60	99.53	0	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
883,583	960.28	920.13

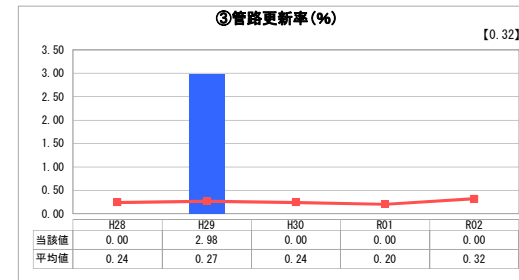
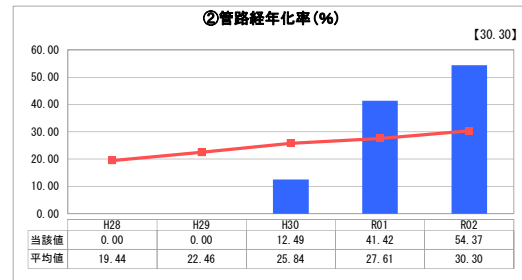
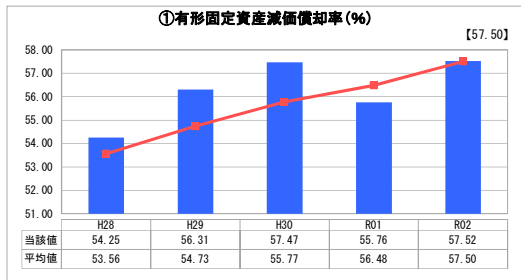
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経営収支比率
比率は100%を上回り、また類似団体よりも高い水準を維持しており、堅調に推移している。
- ②累積欠損金比率
当年度においても欠損金は発生していない。
- ③流動比率
比率は100%を大きく上回り、また類似団体よりも高い水準を維持している。
- ④企業債残高対給水収益比率
給水人口の減少等により、給水収益の減少が続く中でも、高い流動比率を維持しつつ、適正な施設更新を実施したうえで、企業債残高を一定以下に抑制できており、類似団体よりも低い水準を維持している。
- ⑤料金回収率
供給単価が給水原価を超え、100%以上を維持している。
- ⑥給水原価
類似団体より低い水準を維持している。
- ⑦施設利用率
類似団体より低い水準となっている。
- ⑧有収率
100%を下回っているのは、水質管理上の計画的な排水によるものである。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
償却率の割合から折り返しの頃と推定される。類似団体と同水準で推移している。今後もマスタープランに基づいて計画的・効率的に更新を行っていく。
- ②管路経年化率
管路の大半は昭和40年代中頃に布設しており、それらが耐用年数(40年)を超えたため急上昇している。
- ③管路更新率
マスタープランに基づき、令和5年度以降に順次更新を行う予定としている。

全体総括

清浄な水を安定的に供給し続ける当企業団の使命を果たすため、令和3年度より「新・新潟東港地域水道ビジョン」のもと「マスタープラン2021」を策定し、水の安全性確保、確実な用水供給の確保、危機管理機能の強化、業務改善の推進の4つの基本施策に取り組み、経営の健全性・効率性の維持向上に努めるとともに、老朽施設の更新や、災害に強い水道を目指して基幹施設の耐震化を進めていく。